

保護者のみなさまへ

コレだけは
知っておきたい!
教育NEWS

イマ
どき

（語彙力アップ）

Q.

家族みんなで
考えてみよう!

間違えやすい言葉の問題
できるかな?

今年から町内会の役員をつとめています。来月、町内のみなさんの親睦をはかするために、「お楽しみ会」を開くことにしました。気が置けない仲間が集まり、大いにしんこうを深めたいと思います。

① 部のひらがなを漢字に直しなさい。

② 「気が置けない」とは、どういう意味ですか？
次から適切なものをすべて選びなさい。

ア 油断できない イ 遠慮がいらぬ
ウ 気をつかう エ 打ちとけた

(エ、イ、ウ) 正解、ア、ウ、エ

学力の根幹は言葉の力 もっと“使える国語”を目指して!

① 語彙指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。

語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。このことを踏まえ、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を系統化して示した。

〔【国語編】小学校学習指導要領〔平成29年告示〕解説より〕

「国語は日本語なんだから、特別なことをしなくても力がつく」と考えていませんか？ 実は、思考力や表現力のベースとなるのは「国語」。文章や資料を正しく読み取り、適切な言葉を使って書いたり話したりする力は、「国語」でこそ培われます。今回は、「言葉の力」の大切さについて、**榊山敏郎先生**にうかがいました。

語彙の量と質の違いで
学力に大きな差が!

国語力のベースとなるのは、言葉の量、すなわち「語彙力」です。新しい学習指導要領における国語の重点事項のひとつが「語彙」となっていることはご存じですか？

左に示したように、この4月から実施される新学習指導要領の解説で、「学習内容の改善・充実」の一番目に示されているのが「語彙指導の改善・充実」です。「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と中教審で指摘されたことを受け、語彙を充実させ、すべての教科等において

お話をうかがったのは……

大妻女子大学准教授
榊山敏郎先生



早稲田大学大学院教育学研究科修了。鹿児島県公立小学校教諭、教頭、教育委員会指導主事を経て、2006年から文部科学省専門官と国立教育政策研究所学力調査官兼教育課程調査官（全国学力・学習状況調査の問題作成や分析などに携わる）を併任。2015年より現職。全国各地で教師や保護者向けの国語教育に関する講演会を多数行い、日本の子どもたちの国語力向上に貢献している。著書多数。

基盤となる言語能力を支えてほしい、ということが記されています。

なかでも重要なのは、「理解語彙」から「使用語彙」への転換が求められていることです。小学校1・2年生でも、上の学年の漢字が読めることはあります。しかし、それを使って「文を書きなさい」となると、そう簡単にはいきません。「読める」「知っている」だけでなく、「書ける」「意味がわかる」「その言葉を使って話すことができる」「書くことができる」となるとこそ「語彙力」がある、と言えるのです。

国語辞典で言葉の意味調べをすることは、もちろん大切です。学校の授業でもよく宿題に出されていると思います。しかし、塾では、その言葉を使って書く、話すことまで意識していただきたいと思えます。「使用語彙」を増やさなければ、これからの表現力、記述力重視の入試にも対応できないでしょう。

先生でも間違える!?
同訓異字や同音異義語

2019年4月の全国学力・学習状況調査の小学校6年生の国語では、次のように漢字で「たいしょう」の書きが出題されました。

【問題】地いきの人三十人を調査のたいしよ
うとして、公衆電話は必要かどうかを……

これを正しく「対象」と書けたのは42・1%です。半分以上の子どもが不正解でした。実は「対象」の書きは2年前にも出題されていますが、このときの正答率も42・3%。「対称」「対照」など、同音異義語の間違いも多く、「使用語彙」が貧弱であることが浮き彫りになりました。

私も講演などで、学校の先生方に「AさんとBさんはいしようてきな性格だ」というときの「たいしよう」を書いてみてください」と言っていると、先生でも半分ぐらい間違えます（ちなみにこの正解は、「対称」ではなく「対照」）。

日本語は、同訓異字や同音異義語の多い言語です。耳で聞いたとき、あるいは文を読んだとき、前後の文脈から適切な言葉がパッと頭に浮かぶためには、漢字も語彙として学習しておくことが必要です。つまり、一つ一つの漢字の成り立ちや意味を知って、使い分けができる、ということも「語彙力」なのです。

国語の足腰となる漢字・語句の学習をおろそかにしてはなりません。まずはたくさんの言葉を知っていること。次に、それを使って短い文が書けること。「使用語彙」が増えていかないと、他教科でもつまづきかねないと思います。こうした語彙指導の充実が、塾でこそできることがたくさんあるかもしれません。

すべての教科で必要となる「言葉の力」を意識して

算数の文章題が読めない、社会の資料が読めない、理科の実験記録が書けない……、といった悩みをお持ちの保護者も多いと思います。その問題の根底にあるのは、言葉を知らないから理解できない、書けない、ということがあつたのではな

いでしょうか。

2018年に出版された大きな反響を呼んだ、新井紀子氏の『AI VS. 教科書が読めない子どもたち』では、小学生から社会人までの読解力の現状を調査・研究し、教科書の文章すら読み取れないことが明らかになりました。私自身、全国学力・学習状況調査の10年分の傾向を分析したところ、記述力以前の、テキストの読解力に課題があることをつきとめています。

多書多読でさまざまなジャンルの情報にふれ、わからない言葉はこだわりを持って意味を調べる。さらには、その言葉を実生活の中で使ってみる。それが、アクティブ・ラーニングです。学校でも家庭でも、塾でも、どの教科でも、辞書を手に置いて学習することは必要不可欠だといえるでしょう。

これからの国語学習では、漢字や語彙、言葉のきまりなどの知識・技能をきちんと系統的に身につけながら、一方で、それらの知識・技能をベースに読解し、思考し、記述し、意見を述べるといった学習をバランスよく進めていくことが大切だと思います。

榊山先生からのメッセージ

全国の小学校6年生の4割が国語ざらい、という悲しいデータがあります。確かに、作文を書くのはめんどろだし、長文を読むのはしんどい。でも、国語力がアップすれば、わかること、できることが増えます。「胸を打つ」という慣用句を知れば、「感動しました」→「胸を打たれました」と書けるようになり、作文や日記の表現が俄然豊かになります。

どうか、国語力を軽視せず、子どもたちが生きて働く「言葉の力」を実感できるように導いてあげてください。



★子どもの語彙力をアップする★ 3つのアドバイス

榊山先生のお話を参考に、普通の生活でできる語彙力アップの方法を考えてみました。保護者が使う言葉は、子どもの語彙力にストレートに影響します。ご自分の日本語能力もブラッシュアップするつもりで、子どもとの会話やコミュニケーションに生かしてみてください！

1 なんでも「やばい」ですませていませんか？ それ、やばい!!

母: どう? 今日のカレー。

子: マジ、やばい!!

子: コクがあつてまろやかで、すくおいしい!!

普段から「やばい」を多用している子どもに、いきなり「スパイシーなのにそれでいて辛すぎず、コクがあつてまろやか。お母さん、隠し味に何を入れたの?」なんて表現を求めても無理がありますが、おいしい、マズい、うれしい、かわいいも、すべて「やばい」ですませていたら、語彙力アップはとうてい望めません。子どもが「やばい」と言ったら、やんわりと別の言葉に置き換えてあげるようにしましょう。

3 漢字で書くのがめんどろくさい…… いいえ、使わなければ覚えませんか!!

有名作家のこう演会に行く。

子: 「構」かな? 「講」かな? うーん、どっちだろ

たしかに漢字の学習は退屈なもの。しかし、漢字も語彙である、と考えると、ちょっと学習が楽しくなるのではないでしょうか。上の問題なら、「『こう演会』だから、みんなの前で話すんだよね。話すということは、口で言うことだから……、ごんべんのほうだ!」とひらめけば、正しい漢字は「講」だとわかります。実は、「講」は、小学校6年生が間違いやすい漢字のナンバーワンとも。でも、意味がわかっているならば、間違えることはありませんね。世の中にあふれる変換ミス……。スマホやパソコンで文を作ることが多い今だからこそ、正しく漢字を選ぶ力、書く力が必要です。漢字力アップは、すなわち語彙力アップにつながります。漢字の学習をおろそかにしないように!

2 読書をする、国語の成績が上がるの? はい、相関関係があります!!

中学受験を目指す保護者に行った2018年のあるアンケート調査で、授業や課題以外で読書をする習慣があるという回答は8割以上。そのうち7割が成績上位の子どもでした。ジャンルを問わず、普段から読書をする子どもは、読解力はもちろん語彙力もアップします。重要なのは

保護者のかかわり。読んでいる途中でわからない言葉が出てきたとき、「教えてあげる」37%、「一緒に調べる」19%。「子どもが自分で調べる」+「調べさせる」は35%でした。わからない言葉を放置せず、調べて理解し、改めて文脈を通して読んでみるということが、語彙力を高めるのではないかと考えられます。